平成４年度 施政方針

村長
金子　由征

昨年から心配されました降雪も少なく、幸い当村におきましては、降雪もなく安堵いたしておるところであります。

さて、新年度の予算も決まり、教育施設の整備を始め、多くの重点施策につきまして、平成三年度に引き続きその実績の上に立って着実な前進を図ってまいります。

○教育施設の整備について

魅力的で個性的な地域づくりを進めるためには、心豊かで創造力あふれる人材を育てることが必要です。

小・中学校を通し、いきいき新潟教育プランに基づく実践活動のできる教育施設、設備の充実を図ってまいります。

中学校では、平成三年度から進めてまいりました校舎棟の整備も進み、今年九月を目処に部分開放ができるよう努めてまいります。

生涯学習の推進につきましては、幼児から高齢者まで一貫した生涯教育の推進に努めてまいります。

○土木事業関係について

交通網の発達により都市型居住環境が進み、快適な生活環境の整備が重要な課題となっております。そのため生活環境事業として、村道一号線大別当地内、村道十一号線西萱場地内に歩道の設置を始め、モデル事業の継続で防火水槽建設二基、生活関連集落道の整備、生活雑排水対策を進めてまいります。

○農業振興について

本村の農業は、良質米の生産を基軸に発展させていくべきものと考えており、経営基模を拡大する中核的農家や生産組織の育成を推進するほか、二十一世紀型水田農業、いわゆる低コスト生産体制の促進に取り組んでまいります。

また、酪農振興、園芸振興、果樹振興の推進を図り、地域全体の生産性の向上が実現できる効率的な生産システムを図ってまいります。

○商工振興について

村外各地での大型店の進出による影響が心配されるため、商店街の活性化を始め、地場産業や後継者の育成、街の美化運動、技術向上と販売路の拡大を図るとともに、村民の村内就労の場を確保するために工場誘致を進めてまいります。

○保健福祉について

人生八十年時代を迎え、村民の生活様式が多様化する中で生き甲斐を感じながら健やかに暮らせる村づくりを行なってまいります。人間の尊厳と思いやりを大切にして幸福を分かち合い、ハンディキャップを持つ人も持たない人も同じ社会の一員として、ともに生き、ともにつくる福祉社会の実現を基本理念として、月潟村社会福祉協議会を設立いたします。

また、高齢者の社会参加の促進を図るため、「ことぶき月潟」の発行など、地域ふれあい事業の充実を図ってまいります。

さらに健康づくりを村民の日常生活に定着させるため総合検診のほかに、保健委員のご協力を得ながら、成人病の予防を推進してまいります。

また、国民健康保険においては、全国的医療費の動向が二十兆円とも言われており、当村における医療費は良好の状況にあり、保健サービスの充実を図ってまいります。

○簡易水道について

村の人口増加や工場などの水需要が増加している中で、平成十三年度を目標とする基本計画を策定し、一日最大給水量を三千六百五十立方㍍を可能とするため、第二次拡張事業を行ない、将来に向けて安定した水の供給、確保に努めてまいります。

また、使用料金についても健全な運営に心がけたなかで、高負担とならないよう努力し、一般会計からの繰入れについても配慮することとしております。

○姉妹町村の交流について

平成四年二月十四日、北海道月形町多目的研修センターにおいて、両町村の人のつながりや物産、文化の交流を通じ、町づくり、村づくりの輪を広げることとし、友好姉妹町村締結式を行なってまいりました。今後も色々な交流を行なってゆくつもりであります。

以上、新年度の予算編成にあたりまして、健全財政の確保に努める一方、二十一世紀に向けて明るく豊かな村づくりのため、多様化する要望のうち緊急性に必要な施策に対し、効率的な配分を行い、開かれた村政を進めるため、地域の声をできる限り反映してまいりたいと考えております。

村民のみなさまのご理解、ご協力をお願い申し上げて、施政方針とさせていただきます。

〝消防団人事決まる〟
消防団長に 鷲尾 健治 氏

任期満了に伴う消防団人事は、四月一日付けで次のとおり任命されました。

（敬称略）

◆本部

団長　鷲尾　健治
（教育主幹兼務）
副団長　村松　久栄
（訓練部長兼務）
副団長　間島　繁樹
（技術部長、予防部長兼務）
ラッパ長　斉藤　武男
自動車部長　金井　信二

◆分団

第一分団長　阿部　一人
同副分団長　羽入　正志
同副分団長　小武内昭一
第二分団長　山坂　仁
同副分団長　児玉　利昭
第三分団長　野内　弘
同副分団長　児玉　芳晴
同副分団長　長沼　豊松

火災場所の問い合せは 373―3400へ

万一、不幸にして火災が発生すると、村民からの問い合せ電話が役場に殺到し、役場の電話が大混乱します。そのため、消防署や消防団との連絡に支障をきたし、火災現場への出動が遅れる原因にもなりかねません。

非常時の電話は、役場と消防署、消防団との唯一の連絡網です。

火災の際の問い合せは、役場へかけないで、白根地区消防署のテレフォンサービス「373-3400」を利用されますようお願いします。

村内美化運動を実施
小雨の中150人が参加

4月5日(日)、ふるさと運動の一環として「アキ缶拾い」が行われました。

小雨の、悪天候にもかかわらず、村内の各種団体、親子など約150人の参加を得て、早朝6時30分より、約1時間の間、村内主要道路脇を徹底的に〝アキ缶・アキビン〟を拾いました。

袋いっぱいのアキ缶・アキビンは、昨年と同様約2㌧にもなりました。

みんなの〝ふるさと〟いつもきれいにしておきたいものです。

早朝より参加していただきましたみなさん、大変ありがとうございました。

マナーを守り きれいな〝村づくり〟

▼山積みされたアキ缶、アキビン。
誰が、どうして捨てるの？

第18回 村内柔道大会

恒例の村内柔道大会が三月十日、十七日にわけて、各学年総当たりで行なわれました。結果は左記のとおりです。

又、四月五日、六年生を送る会が行なわれ、六年間の思い出などを語り合いました。

（敬称略）

（個人戦）

○二年～三年生の部

敢闘賞　樋浦　義久

※この部は、対戦相手が無く、上級生と対戦し、対戦内容が良かったためです。

○四年生の部

優勝　大関　浩一
準優勝　栗林　一典
三位　小林　直樹
敢闘賞　長沼　佳枝

○五年生の部

優勝　三星　吉孝
準優勝　大橋　陽平
三位　五十嵐博史
敢闘賞　田辺　勇

○六年生の部

優勝　田村　慎哉
準優勝　細海　敏也
三位　池田　直樹